

交流・防災施設計画についての提案

中山間地域の特色を活かした交流イベントや音楽会、林間学校等の魅力的なプログラムを設定し、伸びやかな大屋根の下、使い方に柔軟に対応できるフレキシブルな空間で地域内外に開かれた交流がうまれる施設とします。

(様式5-1)



みふね re:born

- 記憶と未来をつなぐプラットフォーム -

御船町の地形・歴史・風景を活かす

御船町の中山間地域では、複雑な地形に沿うように張り巡らされた棚田、深い谷を跨ぐ石橋、高低差のある田畑への水路など、阿蘇外輪山から連なる複雑な高低差が特徴的な地形を活かし、生活・生業の工夫が美しい風景を作っています。



敷地の高低差を活かす

敷地を分断するように存在する高低差は、地域の地形的特徴であり、対応する擁壁や階段は、ここにあった校舎の名残です。この高低差を積極的に活かした計画とすることで、**記憶を継承、多様な居場所を創出し、新しい風景を作ります。**

平時と有事の機能を考慮した平面計画

地形を活かすよう高低差上に建物を配置。建物と擁壁の多様な関係で居場所を作ります。敷地の周りに連なる山々を望み、分節された屋根が山並みに呼応する風景となります。**体育館やグラウンドとスムーズに連携できる位置に多目的スペースや会議スペースを配置、トイレや備蓄庫は分散配置とすることで、状況や用途に応じて使い方を変えることが可能です。**間仕切り扉によって、**多目的スペース・縁側ひろば・会議スペースとのつながり方、体育館・グラウンドへの開き方を調整することができ、状況に応じた使い方や将来的な変更にも柔軟に対応できます。**



ユニバーサルデザインに配慮した計画

わかりやすいサイン、体育館とスムーズにつながるための段差解消、施設全体の見通しがきく平面計画、駐車場からアクセスしやすい配置計画など、高齢者や子ども、障がい者など、どなたでも自由を感じることもなく気軽に利用できる施設として整備します。

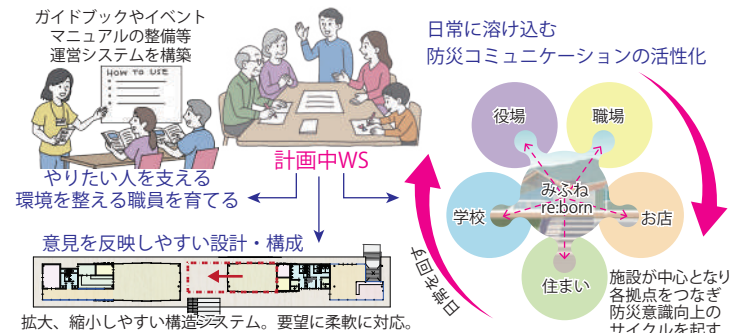
中山間地域の安心安全を支える防災拠点

有事においては、指定緊急避難場所として体育館やグラウンドと連携する、地域住民の方々が安心して避難できる施設です。間仕切り扉によって、室同士、体育館・グラウンドとのつながり方を調整することが可能なため、**室の大きさや用途を柔軟に設定することができ、災害規模に応じた避難所として機能します。**全体の見通しが効くことも、災害時のスムーズな活動に寄与します。



使われ続ける施設を目指して

運営者や職員、利用者の意見を反映しやすいフレキシブルな設計・構成とし、**計画段階からコミュニティデザインの専門家によるワークショップを開催します。**防災コミュニケーションの拠点として地域の日常に溶け込み、高齢化が進む地域の施設として時代の状況に臨機応変に対応し、継続的に運営していくため、**施設運用開始後も継続してワークショップや運用システム提案を実施します。**



日常から有事へスムーズに移行するフェーズフリーな施設

避難拠点等の非常時の建物活用は、緊急性を要する場面で突然訪れますが、その頻度は低く、滞りなく活用することは容易ではありません。そこで、**宿泊や炊事、集団生活等、非常時の利活用を包含した日常時の運用システムを想定し、利用者と職員の双方が、日常的な活用の延長で、非常時にもスムーズに活用できるフェーズフリーな施設とします。**

-日常のイベント-

ミニ音楽会

音大と連携。練習成果を夜のミニコンサートで披露し交流を深める

林間学校スタイルの防災×世代交流

自然体験を取り入れた1泊2日。学び知恵や経験を分かち合う世代交流型の宿泊イベント

恐竜と冒険するRVキャンプ

恐竜探検やRV宿泊に加え、キャンプファイヤーや星空観察も楽しむ体験型アウトドアイベント

癒やしと健康を育む、お琴サロン

高齢者向けにお琴を楽しむながら指先や姿勢を整え、心身の健康維持と交流を深める

-災害発生時-

身の安全確保

近隣所の確認

一時集合場所に集合

避難

避難所開設

開設、受入準備

レイアウトづくり

受付開始

スペースへの誘導

名簿づくり

運営体制づくり

運営協議会の設置

ルールづくり

飲料水の確保

トイレの確認、設置

けが人・病人の応急対応

避難所運営

行政との連絡体制の確保

物資の確保

在宅被災者への対応

避難所の安定化

ルールの確率

生活支援

医薬品の確保

居場所づくり

管理(衛生・食事・健康)の徹底

相談体制の確率

こころのケア

避難所統廃合

閉鎖に向けた動き

3分

30分

3時間

24時間

48時間

72時間

3週間

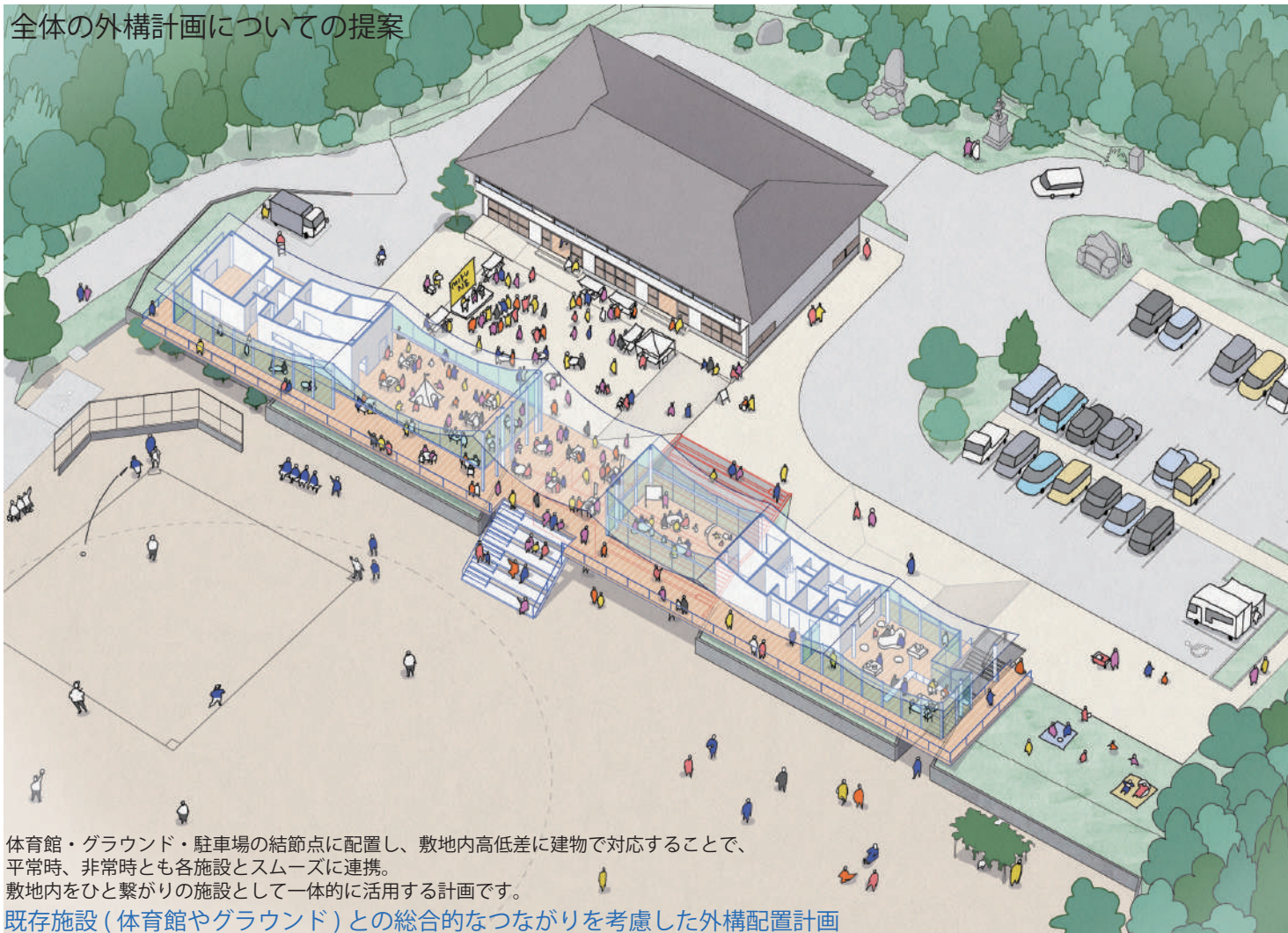
3ヶ月

初動期

展開期

安定期

全体の外構計画についての提案



県産材を地産地消する木造建築

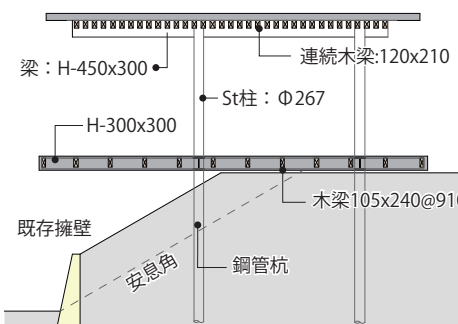
建物で使用する木材は、熊本県産材品カタログを参考に、県内で産出から加工まで行える材種・材寸による構成とします。建物を平屋とすることで、床や壁、天井等内装の木質化を無理なく実現します。外壁も木板貼とし、薪ストーブは木質バイオマス燃料を活用します。

県内の森林



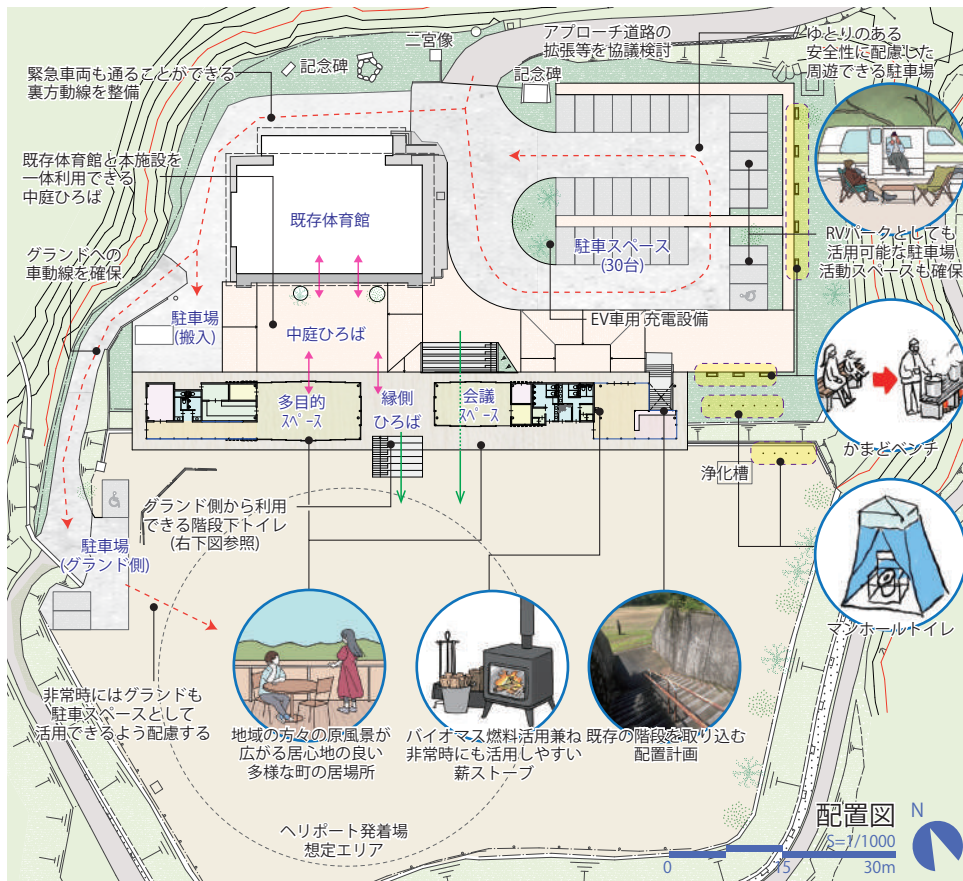
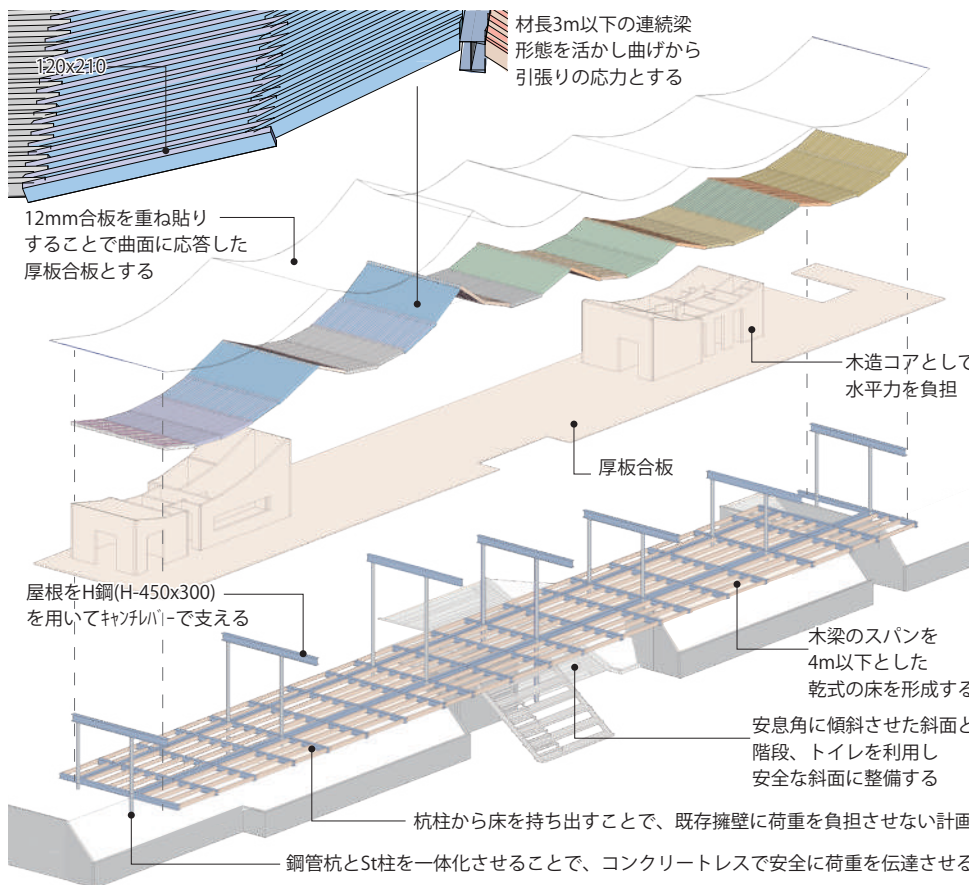
既存擁壁に負担をかけない基礎計画

- 既存擁壁に新たな荷重を作用させない杭基礎。
- 1階床を擁壁上部に跳ね出すために鉄骨造とし、杭基礎と一体化。コンクリートを用いない基礎構造を実現。
- 1階床組みは木造とし、構造全体を軽量化。



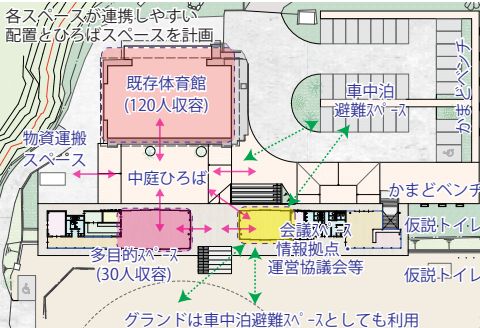
県産材を活かし屋根形態に即した架構による合理的な構造計画

- 南北方向の開放性を確保するとともに、曲面屋根を支持するため、棟位置に門型鉄骨フレームを配置。
- 門型フレームは、短辺方向をラーメン構造、長辺方向を片持ち構造。
- 屋根部分は3m以下の単材をずらしながら重ね合わせることで懸垂屋根形状を形成し、交差部は曲げ剛性を有する接合方法を採用。
- 両側に配置するコア部分は、地震時に生じる水平力および屋根形状に起因する水平力を負担。

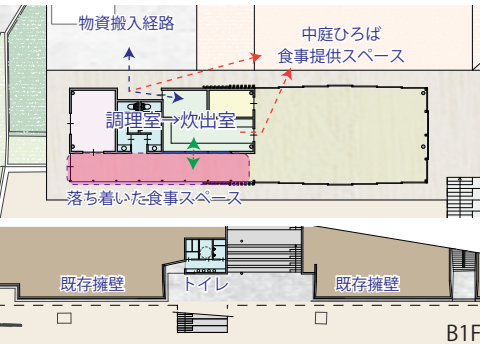


フェーズフリーな配置計画

体育館、グラウンド、駐車場と連携しやすいよう、各施設の結節点となる位置に建物を配置し、日常から有事へスムーズに移行できる計画とします。

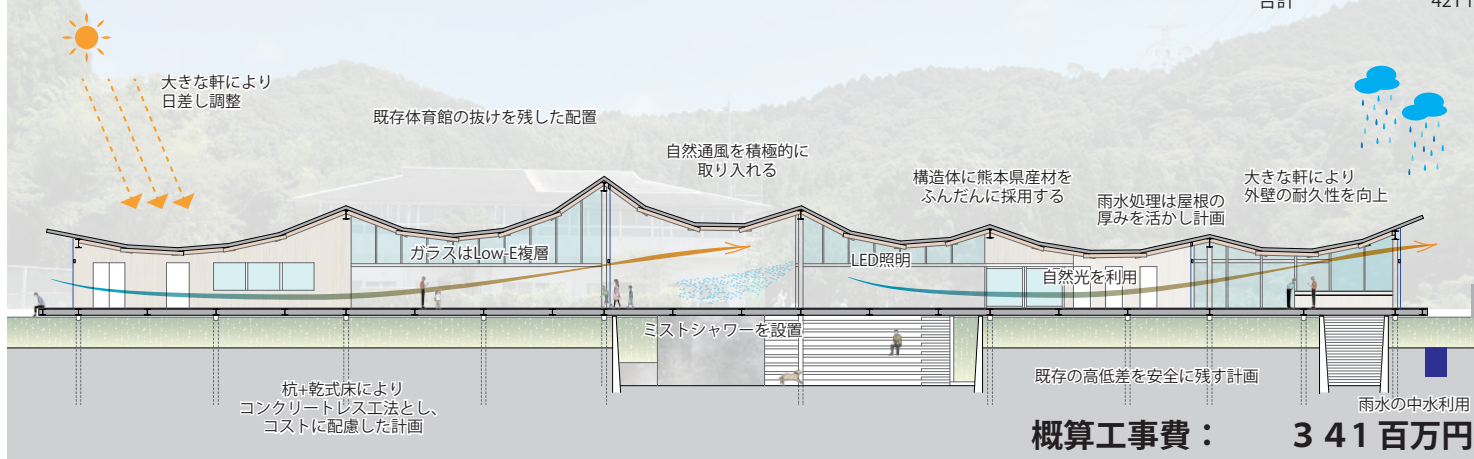


平常イベント時の調理室と多目的スペース／有事の炊出室と食事提供スペースの関係等、平常時と非常時、双方の使い方を想定して計画します。



環境負荷低減・省エネ化を考慮した計画

大きな軒の出により、風雨が外壁に直接当たることを防ぎ耐久性を向上すると共に、季節による室内への直射日光の調整をおこないます。高性能断熱材やLow-eガラスを採用し、建物の断熱性能を高め、可動開口部を多くとり中間期の通風を積極的に取り入れることで、冷暖房負荷を低減します。雨水貯留を中水利用、災害時の貴重な水として活用します。



コストを抑える工夫

既存高低差の処理に建物基礎によって対応することで、土地の切り盛りを最小限に抑え土工事のコストを抑えます。RCを使わない基礎で、建設費を抑えます。多くの木部を視認できるようにし、劣化等不具合が進行する前の早期発見、メンテナンス費の削減を可能にします。LED照明やLow-eガラス、節水型便器等、省エネ効果が高い設備を採用することでランニングコストを抑えます。

面積表

○多目的スペース	100㎡
○会議スペース	55㎡
○トイレ	73㎡
○更衣シャワー	9㎡
○厨房	28㎡
○収納	15㎡
○事務室	19㎡
○備置庫	30㎡
○ホール・廊下	92㎡
合計	421㎡

概算工事費： 341百万円